



絵・石井一隆(当事者)

なごみだより

令和元年度秋号(第27号)

とちぎ高次脳機能障害友の会 2019.9.20発行



この会報誌は、赤い羽根共同募金の助成金により発行しています。

はじめに

暑い暑いと毎日のように熱中症が心配された季節も9月に入るところにはさすがに落ちつき、朝夕少しほっとできるこの頃となりました。それにしても気温もさることながら湿度の高さも身体にこたえた今年の夏、果たして2020オリンピック・パラリンピックの夏は大過なく実施できるのでしょうか？老婆心とは思いつつ心の隅で心配をしています。

さて県内の高次脳機能障害支援体制は、昨年発表された5ヶ所の支援拠点医療機関を各地域の核として今後徐々に整備され医療・福祉・行政更には就学・就労等の各関連機関の連携のしくみが作り上げられていくはずですが、その過程は一石二鳥で行くはずもなく、また当事者・家族を置き去りにした実状にそぐわない形だけのものになってはならないと強く思っています。そこで10月の講演会では、すでに支援の連携にご尽力されておられる足利赤十字病院の船山道隆先

生に佐野市においてご講演をお願い致しました。当事者・家族は勿論ですが、この障害に関わるすべての方々にとって障害理解と情報入手は最も重要であり高次脳機能障害と向きあう第一歩であると考えます。是非多くの皆様にご参加いただき、それぞれの立場でこの講演会で得た知識や情報を今後の生活や仕事に活かしていただきたいと思います。

とちぎ高次脳機能障害友の会
会長 中野和子



目次

はじめに.....	1
活動報告.....	2, 3
研修会・委員会・その他の活動報告.....	4 - 6
9月から2020年1月までの活動予定.....	7
栃木県障害者総合相談所のコーディネーターさんのご紹介.....	8
日本高次脳機能障害友の会よりお知らせ.....	9, 10
本の紹介・寄付のお願い.....	11
新聞・TVニュースの中から.....	12
入会のご案内.....	13

活動報告

2019総会並びに学習会 5月19日(日)10:00-15:00 ぽぽら 参加者45名

総会は正会員の3分の2以上の出席があり、盛会のうちに議事が進行、平成30年度活動・決算報告、令和元年度活動計画・予算案が可決・承認され、新年度の活動に向けたスタートが切られました。新しく家族の集いがこの5月より隔月開催されることになった事で、会員の家族の皆様には少しでも心が吐露できる場になることを期待しています。

学習会は昼食を挟んで13時30分から15時まで栃木県保健福祉部障害福祉

課障害者差別解消相談員石川一夫様をお願いして「差別解消条例制定の意味—見えにくい障害にとって」というテーマでお話をうかがいました。条例の制定の効果はすぐに現われるものではありませんが、県民のすべての人の意識の中に障害のある人への思い(配慮)が生まれるきっかけになることを祈りつつ話をうかがいました。私達も不当な差別を受けたと感じた時にはいつでも相談に行きましょう。

6月 社会体験研修<いわき> 6月8日(火)7:30-18:40 参加者29名

健康の森を7時30分に出発、JR宇都駅東口から笠間SAを経由していわきからミュウ駐車場についたのは10時45分頃でした。急に雨も降り出し風も出てきた中クルーズ船に乗り、この先どうなることかと心配したのですが、和気あいあいとおしゃべりしながら湾内遊覧を楽しんでいるうちに風も雨もおさまり、下船の頃には雨具等いなくなりました。その後ららミュウの中で各自海の幸に舌鼓を打ち、東日本大震災の展示室や魚市場を見て買い物等も楽しんだ後、隣接する海洋科学館へ移動、広大な展示を見てまわりました。可愛らしく小さな

黄色い魚がきらきら光りながら大きな団子状の群れをなして回遊している様子、あるいはものすごく大きな雄叫びをあげながら動き回るトドの水槽など、展示されている魚もさることながらそれを観ている会員の真剣に魚群を追うまなざしや、満面の笑み、やはりこのような行事を実施してよかったな—と思える瞬間でした。研修旅行としては29名という今までになく多くの参加者があり、そのような意味でもよい研修だったと考えています。

7月定例会 7月13日(土)13:00-16:00 ぽぽら 参加者22名

<仲間リハ>Cocowaさん指導

当事者参加者10名、総勢22名、Cocowaさん指導のもと、会では初めてパソコンに挑戦しました。各自ノートパソコンを持参し、Cocowaさんから借りられたので一人1台使うことが出来ました。まず個々の設定を見てくださ

いましたが、当事者の方は皆パソコンの経験者なのでとてもスムーズにいました。

初めに好きな動物をかいたネームプレートを利用して自己紹介から始まり、Cocowaのかずこさん、まさのぶさん、なおとさんお三方の自己紹介も含め、和

やかな雰囲気をつくりだして下さいました。

パソコンでウチワをつくる事になりました。

支持された夏に関連したもの花火、朝顔、ヒマワリ、風鈴、スイカ、かき氷等の中から自分の好きなイラストを選んで、うちわに好きなようにレイアウトし、バックの色を決め、最後に好きな文字を挿入して完成です。それを Cocowa さんが持ち帰り実際にうちわに印刷して下さいとのことで、皆さん出来上がりが待ちどうしそうでした。

Cocowa さんのご厚意で全部ボランティアでおこなって下さり、高次脳機能障害の対応はお手のもの…主にデザインを担当している方だけあってセンスも良く、とても実り多い時間でした。来年の1月にもう一度パソコン教室がありますので、今から楽しみにしています。

(石井ミ)

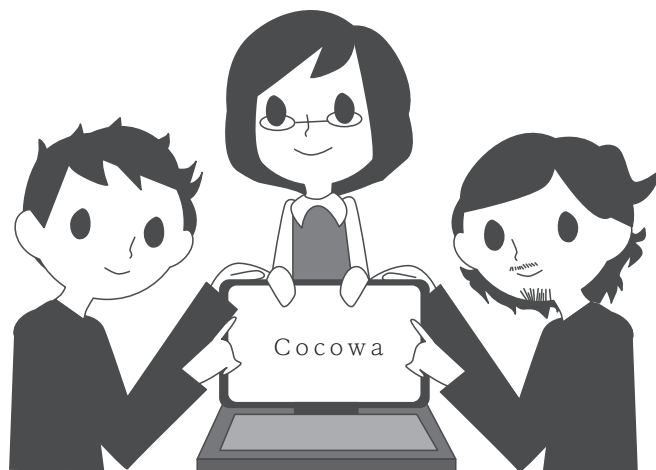
<くながみの会>

仲間リハの感想の後、初めて参加のお二人から質問がありました。

「現在仕事をしている人はどのような仕事をしているのか。それぞれの職場と仕事の内容を教えてほしい。」ということでした。

何人かの人が障害者枠での就労や作業所での就労の内容や状況を答え、貴重な情報交換の場となったようです。

全体として当事者が10名参加、役員4名、その他家族3名、支援者5名、計22名と定例会がずいぶん充実したものとなってきて運営者としてはうれしいものです。さまざまな状況からその場に居られず途中で帰られた人もありましたが、それでも大変な状況下こぼぽらまでご家族とともに出かけてきて、参加する意思を持ち、帰りにはまた参加してねという声掛けに“うん”と少し笑顔で答えて帰られた若者に、まだまだ回復の可能性を十分に感じた瞬間でした。



- | | | | |
|---------|--------------------|---------------|-----------------|
| ○ 家族相談会 | 8月1日(木)(臨時) | 9:00 - 10:30 | 県障総相 面談室 |
| ○ 家族の集い | 5月29日(水) | 13:00 - 15:00 | 8名参加 カフェ・インクブルー |
| | 7月24日(水) | 12:00 - 15:30 | 8名参加 カフェ・インクブルー |
| ○電話相談 | 6月-3件 | 7月-9件 | 8月-3件 |
| ○役員会 | 5月28日 | 6月25日 | 7月23日 8月26日 |
| | 各10:30 - 13:30 ぽぽら | | |

研修会・委員会・その他の活動報告

5月30日(木)10:00-14:00 参加者 中野
北関東家族会交流会 越谷市民活動センター

医療機関をはじめとする支援機関と家族会との関係性の上でもそれぞれの県によって大きな違いがあるようです。それぞれの県の状況を報告し合う中でどのような連携のシステムづくりが可能なの

か、あるいは将来的に発展性のあるしくみづくりとはどういうものなのか等議論し合える場です。またこの会は交通事故被害者ネットの方々のお力添えがあって運営されています。

6月21日(金)13:30-16:30 講師派遣 中野
県障総相主催 高次脳機能障害相談支援研修(基礎編) とちぎ健康の森大会議室

第3部として「地域で暮らすこと～家族の立場から～」というテーマで約1時間話しをさせていただきました。80名の参加者があり、そのうち67名の方から講演後のアンケートに温かな言葉や好意的なご意見等を記載していただきました

た。私達の今後の活動にとっても大きな励みとなります。この研修は基礎編でしたがベテランの方も多く参加されていたようで、もう少し話が深められれば良かったかと反省しています。

6月23日(日)11:00-17:00 参加者 中野
TKK高次脳機能障害実践的アプローチ講習会 千代田区JA共済ビル

講義内容

- ① 高次脳機能障害とその支援に向けた取り組み
国立リハビリテーションセンター 深津玲子氏
- ② 高次脳機能障害のある方の支援に活かす SST
東海大学健康科学部講師
NPO 法人 横浜メンタルサービスネットワーク 副理事 舩松克代氏
- ③ ダイバーシティ&インテグレーション(障害のある方とともに働く)
トッパン・ムーア株式会社 鈴木康之氏
- ④ 脳損傷者の健康管理 滋賀医科大学社会学講座法医学部門教授 一杉正仁氏

今回も内容の濃い講習会でした。特にSST(ソーシャルスキルトレーニング)の舩松(へのまつ)先生のお話は強く印象に残る部分も多く、家族としてまた今後の会運営(定例会など)にも大変役立つ内容でした。③の講義ではトッパン・

ムーアの鈴木さんのような上司の下で働く障害者はとても充たされるところが多く勤労意欲も高まるだろうと思いました。その環境を認め整備した会社もまた素晴らしいですね。

共同募金助成団体ヒアリング

7月1日(月)13:20-13:50
出席者 石井 中野 福祉プラザ

県社会福祉協議会のヒアリングは初めてではありませんので障害に関するご質問はいただかなかったのですが、当障害を負っている人が少なくとも人口の0.25%というのになぜ会員が増えないのか?というご質問には私達も返答に困りました。障害名はずいぶん栃木県内で周知されてきていると思いますが、医療機関をはじめとする支援機関の対応の問

題、あるいは県民の障害に対する意識の問題、年代間での家族会(組織)に対する捉え方の相違、更には他力本願的思考の拡大等々、さまざまな問題が裏側にひそんでいるように思います。当会だけでなく他の会でも今後存続できるかどうか大きな問題となっているようです。

(ちなみに8月末に令和2年度活動の助成決定通知をいただきました。)

佐野家族の集い

7月12日(金)13:00-15:00 参加者 中野
いきいき元気館田沼

この日は足利赤十字病院 OT の松川さんが船山先生の代理として参加して下さいましたが、佐野のご家族の参加が2組しかなかったので少し残念でした。

それでも佐野の相談支援事業所みどりの高橋さんの司会進行で家族の思いが十分話せる場になっています。

とちぎソーシャルケアサービス公開セミナー

7月22日(土)10:00-12:00 参加者 中野
福祉プラザ

国際医療福祉大学・大学院教授白澤政和氏のご講演で、テーマは「地域共生社会の実現に向けて何をなすべきか」でした。昨年の国の報告書では社会保障のゴールを2040年と見据えており、その中で地域包括ケアシステムをはじめ様々

対策が採られていくが、重要なのは地域ごとの人的資源の掘りおこし、人と人とのつなぎ、法と法とのつなぎ、地域丸ごとという考え方の重要性など、興味深い内容を沢山お話し下さいました。

TDF(栃木障害フォーラム)研修会

7月26日(金)10:00-12:00 出席者 中野
福祉プラザ

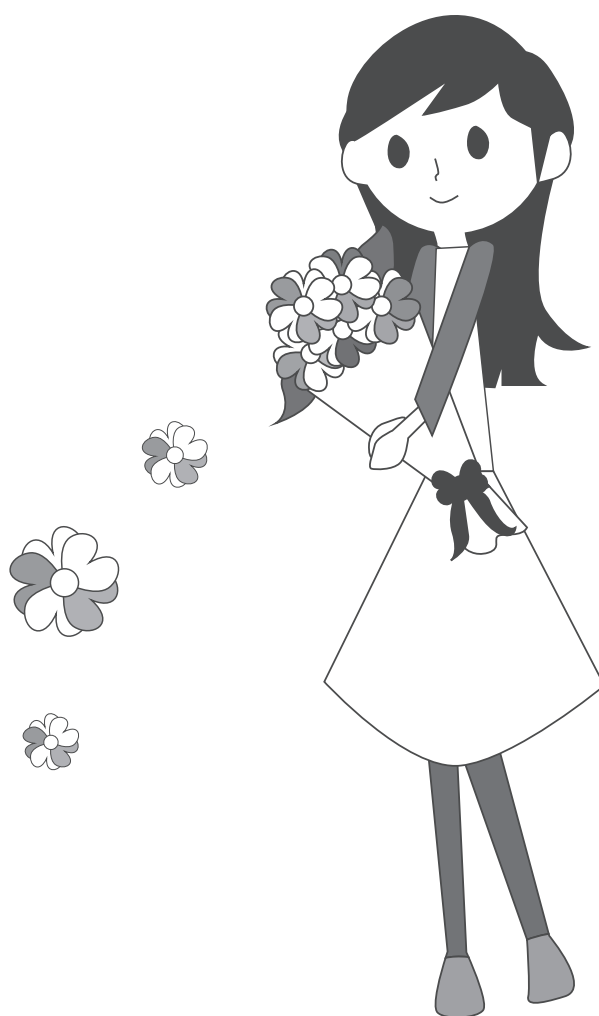
県内の30余の障害関連団体が加盟しています。

総会後の講演会では国際医療福祉大学の松永千恵子氏による「障がい者虐待の現状と課題」というテーマでのご講演がありました。施設等での虐待の問題は時々ニュースで見聞きし県内でも未だにこの問題がとりあげられることは皆さんご存知ですが、虐待の中で最も多いのは家庭内で家族による虐待のケースです。

しかもその半分近くは虐待者が虐待と意識せずに行なっているという現状があります。私達も家族の一員としてその対応をきちんと振り返る必要があるということです。

23 日(金)の下野新聞に掲載されたように条例制定から3年を経過する中でその検証と見直し作業をすすめること、更には今後の啓発活動の具体的内容が示され審議されました。形ばかり名ばかりの条例にならぬよう実状をしっかり把握した上で、例えば長期間要しても確実に障害(者)に対する県民意識の変革をもたらし、実質的な差別解消の道が歩めるような施策を打出し実行して欲しいと思います。未来に向けて住みたい県、あるい

は後々に住んでよかった県となる為にも…。障害者に優しい地域は子どもにも高齢者にも人や生きものすべてに優しい地域になるはずですから。



2019年9月～2020年1月の活動予定

9月14日（土）13:30-16:00 ぽぼら

定例会 仲間リハ（パステル画―果物と野菜を描く）

なごみの会（たし算の考え方）

9月25日（水）13:00-15:00 カフェ・インクブルー

家族の集い

10月6日（日）13:30-15:40（受付 13:00 -） 佐野市中央公民館

第9回講演会 ◎多くの人に参加して欲しいです！（チラシ参照）

10月18日（金）、19日（土） 高松市（香川県民ホール）

全国大会（9・10頁参照）

10月25日（金）10:00-12:00 ぽぼら

家族相談会（個別・要予約）

11月10日（日）13:30-15:30 健康の森 講堂

県障総相主催 高次脳機能障害セミナー ※後日詳細をお知らせします。

11月27日（水）13:00-15:00 カフェ・インクブルー

家族の集い

12月14日（土）11:00-14:00

クリスマス会 ※11月にハガキにてご案内いたします。

12月20日（金）10:00-12:00 ぽぼら

家族相談会（個別・要予約）

2020年1月11日（土）13:00-16:00 ぽぼら

定例会 仲間リハ（パソコンを習う） なごみの会

1月22日（水）13:00-15:00 カフェ・インクブルー

家族の集い

今年度から 家族の集いを 隔月開催します。場所はオリオンスクエアに面する東側のビル（カフェ・インクブルー）の 2 階です。お茶を飲みながら 家族の想いや悩みを皆さんで話してみませんか。前もってのご連絡は不要です。参加されると少し楽になれるかもしれません。

カフェ・インクブルー 宇都宮市江野町9番8号 山崎ビル TEL 028-688-8501

家族相談会は**従来どおりぽぼら**でおこない、予約制です。

電話は 0285-38-6485 です。

栃木県障害者総合相談所の コーディネーターさんのご紹介

平成 31 (2019) 年 4 月から、栃木県障害者総合相談所に配属になり高次脳機能障害支援コーディネーターを務めさせていただきます

小原 枝美子 (おばら えみこ)

と申します。

主に宇都宮市（ただし、合併前の旧宇都宮市）、県西地区（鹿沼市、日光市）及び県東地区（真岡市、益子町・茂木町・市貝町・芳賀町）を担当いたします。

私は、平成元年度に行政職として栃木県に入庁しました。これまで経験した業務は、庶務経理を中心に、学校事務、住民基本台帳事務、収税、企業誘致、庁舎管理などが主なものになります。

私が「高次脳機能障害」という障害名を初めて耳にしたのは、今年3月下旬の異動の内示の時でした。慌てて近くの書店に行き参考になるような図書があればと探してみましたが見つからず、インターネットで国立障害者リハビリテーションセンターのホームページの中に高次脳機能障害に関するページを見つけて閲覧してどのような障害なのかを初めて知りました。

インターネットの通販サイトで探した

図書を5冊ほど購入して読んでみましたが、掲載されている事例と前任者から引き継いだ個々のケースとでは一つとして同じものが無いことや、「とちぎ高次脳機能障害友の会」の総会や家族の集いなどの行事に参加させていただいて、直接皆様からお話を伺う機会をいただいた中でも、その経緯や症状も千差万別であることを知り、本当に難しい障害であることを痛切に感じています。

相談支援に関する業務に携わるのは今回が初めてなこともあり、知識不足・経験不足を痛感する毎日ですが、個別相談業務では、御本人や御家族にとって何が最良の選択なのか念頭に経験豊富な先輩職員と相談しながら対応させていただいています。

当所に配属になり「切れ目のない支援」という言葉をよく耳にしますが、日々の業務を積み重ねていく中で、この言葉の重要性を強く実感しています。

本県の障害福祉行政の一翼を担う組織の一員として、皆様の不安や負担を少しでも取り除くことができるよう努めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

栃木県障害者総合相談所より

事故や脳の病気の後、様々な症状や生活上の問題でお困りの方がおられましたら

栃木県障害者総合相談所 高次脳機能障害担当
TEL 028-623-6114

までご連絡下さい。

受付時間 8:30-17:15（土・日・祝日・年末年始を除く）

日本高次脳機能障害友の会 第19回全国大会2019inかがわ

～それぞれが自分らしく
心豊かに生活しあえる社会をめざして～

◆ 交流会 日 時／令和元年**10月18日(金)**／18:00～20:00
会 場／高松国際ホテル

◆ 大 会 日 時／令和元年**10月19日(土)**／ 9:00～16:15
会 場／レクザムホール(香川県県民ホール)

日本高次脳機能障害友の会運営委員会：令和元年10月18日(金)／13:00～16:30

高次脳機能障害支援コーディネーター研修会：令和元年10月18日(金)／13:00～16:00

会場：高松国際ホテル

主 催：NPO法人日本高次脳機能障害友の会

事業主体：日本高次脳機能障害友の会第19回全国大会2019inかがわ 実行委員会

かがわ脳外傷友の会 ぽちぽち／社会福祉法人 かがわ総合リハビリテーション事業団

後援(予定)：内閣府、厚生労働省、国土交通省、文部科学省、国立障害者リハビリテーションセンター、日本障害者リハビリテーション協会、自動車事故対策機構、日本障害者協議会、日本作業療法士協会、香川県、高松市、香川県教育委員会、香川県医師会、香川県看護協会、香川県薬剤師会、香川県臨床心理士会、香川県理学療法士会、香川県作業療法士会、香川県言語聴覚士会、香川県医療ソーシャルワーカー協会、香川県ソーシャルワーカー協会、香川県社会福祉士会、香川県精神保健福祉士協会、香川県介護福祉士会、香川県介護支援専門員協議会、香川県相談支援専門員協議会、朝日新聞高松総局、毎日新聞高松支局、読売新聞高松総局、四国新聞社



ロゴ制作：SCA 監修：KORPUS DESIGN 2019

日本高次脳機能障害友の会

第19回全国大会 2019 in かがわ

- 開催内容 -

期日	時間	プログラム	会場
令和元年 10月18日 (金)	13:00～16:30	●日本高次脳機能障害友の会 運営委員会 寿	高松国際ホテル
	13:00～16:00	●高次脳機能障害支援コーディネーター研修会 玉藻	
	18:00～20:00	●日本高次脳機能障害友の会第19回 全国大会交流会 瀬戸	

令和元年 10月19日 (土)	8:30～9:00	●受付	レクザムホール 小ホール (香川県民ホール)
	9:00～9:45	●開会式 ・主催者挨拶 ・来賓祝辞 ・当事者活動奨励賞授与式	
	9:50～10:50	●ガイダンス講演 文部科学省 厚生労働省 国土交通省	
	10:50～11:10	●報告 「高次脳機能障害・家族の『介護負担感』に関する実態調査報告」 渡邊 修 (東京慈恵会医科大学 リハビリテーション医学講座 教授)	
	11:10～11:40	●基調講演 1-1 「高次脳機能障害の診断について」 畠山 哲宗 (香川大学医学部附属病院 脳神経外科 助教)	
	11:40～12:40	●休憩	
	12:40～13:10	●基調講演 1-2 「高次脳機能障害の臨床現場からみえること」 河井 信行 (かがわ総合リハビリテーション病院 副院長 福祉センター長)	
	13:10～14:10	●基調講演 2 「これからの高次脳機能障害児・者をささえる し・く・み」 ～高次脳機能障害者支援法(仮)の制定と地域の支援体制の再構築を考える～ 鈴木 智敦 (名古屋市総合リハビリテーションセンター 自立支援局長)	
	14:10～14:20	●休憩	
	14:20～15:50	●シンポジウム 「高次脳機能障害者のリカバリーへの軌跡」 森川 麻理 (かがわ総合リハビリテーション福祉センター 高次脳機能障害相談窓口 支援コーディネーター) 他	
	16:00～16:15	●閉会式	

※申込みにつきましては、別冊「大会インフォメーション」の「参加申込書」より名鉄観光(株)へお申し込みください

おすすめの本

書名 「お母さんのこと忘れたらごめんね」

著者 石 崎 泰 子

発売元 青 雲 社

定価 1,300 円＋税

発行日 2019 年 5 月 30 日

脳炎から高次脳機能障害を負う方は時々おられますが、この本の著者である石崎さんの娘さんは NMDA 受容体脳炎という 10 年前の日本ではまだほとんど知られていない脳炎を発症、ごくごく限られた情報をご両親が必死にとらえて働きかけを行なった結果良い医療者と環境(病院)につながり、娘さんの命は救われました。そして現在では高次脳機能障害は残ったものの障害者枠で就労を叶え、生活をしておられます。その娘さん

のたつての要望で、その発病から現在までをお母さまが一冊の本に著されました。会員の皆様ぜひご一読下さい。高次脳機能障害の原因となる病気や事故は多種に及びますが、同じ障害と向き合う私達は互いに理解を深めることも大切なことで、原因や症状に自分とは異なるものがあったとしても共感できるところや学ぶべきところは沢山あると思います。

書名 「高次脳機能障害支援の道しるべ 学校生活編」

監修 深 川 和 利

編著 長 野 友 里

(お二人とも名古屋市総合リハビリテーションセンター所属)

発行所 (株) メディカ出版

定価 2,800 円＋税

発行日 2017 年 3 月 25 日

以前にも紹介させていただいた本ですが学校の先生方には是非読んでいただきたい本ですので、ご案内いたします。

勿論高次脳機能障害のお子様がおられるご家族にもおすすめします。

寄付のお願い

引き出しの奥に眠っている古いハガキや切手、テレホンカード、また書損じハガキ等ありましたら是非ご寄付下さい。新しいハガキ等に交換させて頂き、活動の一助にさせて頂きたいと思ひます。

毎年たくさんのご寄付をいただき、通信用切手・ハガキ等に交換させていただいております。ありがとうございます。

新聞・TVニュースの中から

繰り返される学校の事故

5月5日 朝日新聞

年 107 万件に及ぶ日本の学校事故 (2014 ~ 16 年度の調査)、校舎からの転落、登下校中の自転車事故、部活動中の大ケガ…。毎年 100 万件を超すというこの調査結果にまず驚かされる。小学生の体育時の跳び箱事故 1 万 6 千件、中高の運動部の部活中のケガは 5 割を超え、命に係わることもある頭のケガは 1 万 2 千件以上。しかもこれが 1 年間に起こる事

故数。さてこれらの子どもや生徒たちは果たしてその後どのような生活をしているのだろうか。高次脳機能障害に苦しむ子ども達はいないのか。教育に携わる先生方の多くはなかなか高次脳機能障害に関心を持ってはくれないのが実情。その受傷した子ども達あるいはその家族はその後どのように生活しているのかとても気になる。

健康格差是正への新組織

6月27日 下野新聞

宇都宮市医師会は貧困や孤立などさまざまな社会的要因で生じる健康格差是正をめざし「在宅医療・社会支援部」を設立。一人一人の患者が抱える問題と向きあい、必要な支援機関や地域活動につなぐ「社会的処方」に取りくむという。医師が通常の診療に加え、患者の生活環境や経済事情にも着目し、患者が必要とする地域の取りくみを紹介するという。医療者主

導の一つの地域包括ケアシステムの構築をめざすものと期待するが、患者が本当に必要とするものは何か？そして地域にどのような活用可能資源が存在するのかを十分に把握した上で一事例ずつ丁寧につないでいかれることを願いたい。

水増し問題で中央官庁 雇用障害者 161 人離職

8月29日 下野新聞

中央官庁の水増し問題が発覚した後に採用された 3131 人のうちその 5 % にあたる 161 人が 8 ヶ月以内に離職。その離職理由で最も多かったのは「体調悪化」31.7 %、次に「本人都合」26.1 % と続く。また 161 人のうち 159 人は非正規雇用で、4 割は契約期間満了によると厚労省は説明している。現在就労している人を対象に意識調査も実施され 88.2 % が満足と回答。一方自由記述のところでは「業務量が少ない」「職場で相談がしにくい」といった悩みの記載も目立ったという。ここに定着への取り組み課題がありそう

だ。また同日現在 1/3 以上の 13 機関が法定雇用率に達していない。

同紙面に「障害者職場で虐待 900 人 (18 年度)」という記事もあり、その数は減ってきているとはいえ、未だに障害者の働く環境や周囲の意識の変革が見られないところも多くある。内容は経済的・心理的・身体的・性的虐待など様々。業種別で医療・福祉が製造業に次いで 2 位にあるのが大きな驚きである。

入会のご案内

高次脳機能障害者（児）とその家族が悩みを話したり、医療や福祉に関する情報を交換したり、理解ある方々の支援の下一人一人の可能性を伸ばし、楽しみや生活の目標を見つけて地域の中で暮らすことができるよう活動しています。一人で悩まずに共に活動していきましょう。

なお、この障害にご理解・ご支援下さる方も、どうぞ賛助会員として長く関わって頂けますようお願い致します。

【活動内容】

- ・定例会開催（仲間リハ・なごみの会）
- ・講演会・学習会の開催
- ・会報誌（なごみだより）年3回発行
- ・家族の相談会（個別）、家族の集い
- ・研修旅行 など

【年会費（一口）】

正会員（個人・家族）	3,000 円
賛助会員（個人）	2,000 円
賛助会員（団体）	5,000 円

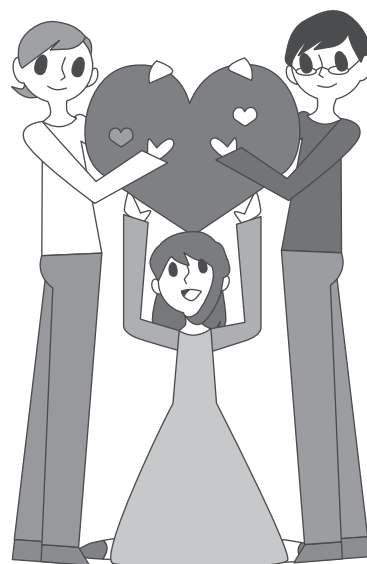
【主な活動場所】

ぱぽら

〒320-0032 宇都宮市昭和 2-2-7

TEL 028-623-3455

※県庁西側 税務署北側



編集後記

この夏かねてから一度は観たいと思っていた青森のねぶた、そして秋田竿灯・仙台の七夕、思いきってでかけてみました。青森も秋田・仙台もこの夏の最高気温といわれる日でしたが日没と共に海風が吹き、目の前にくり広げられる伝統的な祭りのダイナミックさに圧倒され見入ってしまい、暑さなど忘れてしまうほどでした。東北人のエネルギーすごいです！ベテランから若者そして子どもまで、その真剣なまなざし充ちたりた横顔、人（ヒト）としての魅力が溢れていました。（中野）

☆お問い合わせ・お申し込み先

〒329-0502

下野市下古山 3003-47（中野宅）

TEL/FAX 0285-38-6485

※定例会の見学・体験なども随時受け付けています。ご希望の方はご連絡下さい。

会報作成担当

表紙・絵：石井 一隆 石井 ミヨ

本文編集：中野 和子 中野 宥

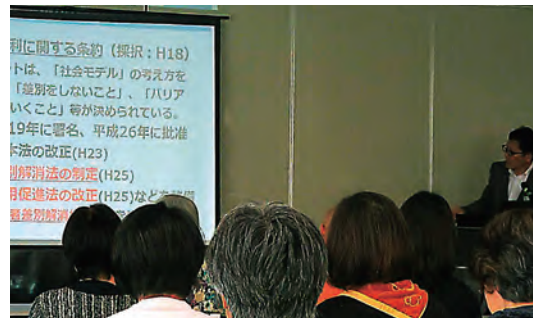
印刷・製本：Cocowa（就労移行支援事業所）



▲ 7月仲間リハ作品



▲ 6月いわき・クルーズ 船内風景



▲ 5月学習会風景



▲ 6月海洋科学館前にて



いわき海洋科学館で
出会ったさかなたち

